



愛する聖徒のみなさん!一週間もキリストの平安と恵みのうちにみなさんの心も、思いも、体も守られましたか。本日で、今までエペソ人への手紙6章の悪魔の策略と戦いにおいて堅く立て、立ち向かい、対抗できるように、神の大なる勝利が我らの勝利となりために、聖書が教えて下さっている神の全て武具を取り、身に付けなさいというテーマで今日まで6回にわたってメッセージを取り次いで来ました。今日がこのシリーズのメッセージの最後の時間となります。今回のメッセージを通して、我らの人生の中霊的な激しい戦いが常にあり、神と愛し合うべき人々との関係を打ち壊そうとし、イエスキリストを信じることを妨げて、神から離れ、決して救われないように、絶えず攻めて来る存在がある、それは人ではなく、悪魔やもろもろの悪しきものの存在であることも教えられました。

### < 1. 霊的な戦いにおける勝利の鍵: いつも信仰の基本に立ち返り、徹底的に身に着け、生かし用いる事 >

我々の戦いは本文10節~12節に書かれているように、「10終わりに言います。主にあつて、その大能の力によって強められなさい。11悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。12私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです」ことが分かりました。ですから、その様々な戦いの中対抗し続け、勝利し続けて行くため聖書の本文13節では、「ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、一切を成し遂げて堅く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい。」と命じて下さっています。我らが身に着けるべき(11節)、取るべき(13節)「神のすべての武具」とは何でしたか。14節からは、すなわち、「真理の帯」・「正義の胸当て」・「平和の福音の備え」・「信仰の大盾」・「救いのかぶと」、そして、今日最後の6番目の「聖霊の剣」というこの六つのものであります!

それは、このエペソ人への手紙が使徒パウロによって記録された AD62年頃、ローマに約2年間投獄されているうちに、聖霊の神の導きにより、エペソにいる教会の人々に送られた手紙のかたちの御言葉でしたが、この「神の全ての武具」というのは、ローマで、あるいは投獄中目の前で見えるローマ軍、ローマの兵士たちの姿が参考になったのに間違いないでしょう。この神の全ての武具と言われた6つの全身武具というのは、何か特別なことではなく、当時、ローマ軍人たちがいつも身につけていた基本武装の姿であったことが分かります! という意味は、神様がこの地上での人生の中様々な霊的な戦いの中で我らが神によって、勝利していくために、我々に何か新しい事や特別なことを身につけるようではなく、すでに神様がイエスキリストを通して与えてくださった、もっとも信仰の基本的なことであり、信仰の基本、その土台となるものを確かめ、信仰の基本に立ち返り、いつも生活中身に着けられていることが大事であることを命じて下さっている内容であることを今まで学ばされました。

### < 2. 当時ローマ軍が使った剣(グラディウスとプギオ)の特徴 >

グラディウス(ラテン語: gladius)は、刀剣の一種で、古代ローマ時代の軍団兵(ローマ軍団)によって用いられた。刃渡りは50cmほどで、柄まで入れて70cmほどと剣としては短い。刀身(とうしん)は肉厚・幅広の両刃で、先端は鋭角にとっても鋭い。形状としては一般的な剣より幅広な形。合金(ごうきん)鉄材を使用し、両方の優れた特性を得て、それ以前の同サイズの鉄剣と比べ破損しにくく切れ味が向上(こうじょう)した武器。この剣は攻撃的な武器として優れており、刃身は非常に強度が高く、両刃の部分はよく切れたため、すさまじい衝撃を与えた。全身を覆うことができる大型の盾で身を守り、戦闘の序盤(じよばん)にはピルムと呼ばれる投槍の投擲(とうてき)で、それに引き続く白兵戦(はくへいせん)では敵軍の前で散開(さんかい)してグラディウスを用いて戦った。グラディウスによる接近戦では刺突(しとつ)も行われたが、斬撃(ざんげき)による傷のすさまじさが敵を戦意喪失に陥れるようにさせた。

その以来、剣闘士(ラテン語: gladiator グラディートル、英語: gladiator グラディエーター)の語源にもなる。

プギオ(ラテン語:pugio)も、ローマ軍内で使われたダガー(短剣)の一種である。同じくローマの軍団兵に用いられたグラディウス(スパタ)と同じく幅広の両刃の刀身を持ち、全体としてはグラディウスを短く小型にした形状である。

もともと補助用武器として装備されたが、むしろ実際には日常生活での使用が多かった。装着方法は多様で、兵士の中には不慮の攻撃に備えて外から見えないようにプギオを装着していた者もいた。

### < 3. 神の全ての武具の六つ目: 有一の攻撃武具である御霊の剣を取りなさい! >

今日は最後の神様の全身武具である聖霊の剣について一緒に学んで生きたいと思います。今までの真理の帯・正義の胸当て・平和の福音の備え・信仰の大盾・救いのかぶとは自分の身を守る為の防備し、防御出来るのための武具だったのであれば、今日の神のすべての武具の最後六つ目のこの御霊の剣はある意味で、有一攻撃が出来る神の武具であり、武器であります!“最善の防御は攻撃することだ”ということばがあるように、どんなに立派な武装をした軍人でも攻撃せずに、ずっと攻めて来る攻撃に対し、身を守るために防備し防御するだけでは、戦いにおいて打ち勝つことはできません。敵と真正面で戦う時には共に対抗出来るように、攻撃のため剣がとても必要で、大事ではないではないでしょうか。

本文17節には、神様は、信じる我らに、霊的な戦いにおいても、当時ローマ軍が使っていたグラディウスのような鋭くて、すさまじく攻撃が出来る強力な武器、剣を取るよう命じて下さっています。「御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい。」と命じられています。今日の本文にはサタンやもろもろの悪しき者どもとの戦いにおいて、防備するだけではなく、致命的に戦い、攻撃することが出来るように、「御霊の剣を取りなさい」と命じられましたが、その聖霊の剣って何だとすぐ教えていますか。そうです。「神様のみことば」であります。

御霊の剣というのは、ほかに特別な何かではなく、私たちにすでに与えられている神様の御言葉(聖書)のことでしょう。新約聖書のヨハネの黙示録では御霊の剣、つまり神様の御言葉というのは、キリストの御口から出たものだと書かれています。黙示録1章16節「口から鋭い両刃(もろは)の剣が出ている」、2章12節「鋭い両刃の剣を持つ方」にも続けてキリストの御口からは出るおことばが鋭(すど)い、両刃の剣だとされています。

みなさん! 私たちの手に持たされているこの聖書! この神様の御言葉というのはこの世の中あふれるいる書物の本の一つではなく、私たちが悪霊どもからの霊的な攻撃や戦いにおいて十分に鋭く見極めさせ、敵対し、打ち勝つことができる神による霊的な攻撃の武具となる強力な剣のようなものであることを忘れてはいけません。もし、みなさんの中イエスキリストを信じ、受け入れて神の子ともとなり、クリスチャンになっても、いつも負けパなしで、サタンの誘惑によく落ちいりやすくなっているとすればその理由は、この神の御言葉なる聖書の剣をちゃんと身に着けて、用いてないからなのではないでしょうか。

マタイの福音書4章で、イエス様は荒野で40日40夜、断食し祈られた後、悪魔が近づき、3度も試みにあわれた時、イエス様がその悪魔を追い出し、誘惑に打ち勝った方法は何でしたか。何か超能力や神秘的な方法で打ち勝ったのですか。そうではありません。ただ、神様の御言葉を用いて、立ち向かい、大胆にその御言葉を語り、宣言し、対抗されるだけで、サタンは自分の目的を達成できず逃げ去ったことが分かります。イエス様の引用された神の御言葉は悪魔の狙いを見通し看破(かんぱ)して、頭を打ち下す鋭い剣のようなものです1回目のサタンの試みに近き、誘惑に対し!マタイ4章4節「イエスは答えて言われた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある。』(旧約聖書申命記8章3節引用)され、2日目の試みに対し、4章7節「イエスは言われた。『あなたの神である主を試みてはならない。』とも書いてある。』(申命記6章16節引用)され、3回目に対して、10節に「イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい。』と書いてある。』(旧約聖書申命記6章13節引用)」

今日私たちがみなキリストの信じるクリスチャンであり、神の子供ですから、神様は私たちにまでも、その神様の御言葉

聖書を我々の手に与えて下さって、日々用いることができる特権と権威を与えてくださいました。

聖書の本文でパウロが言っている剣は当時ローマ軍人たちが使った両刃(もろは)でした。当時ローマ軍人たちが使っていた剣というのは片方だけの剣ではなく、左右両方どちらからでも、相手の攻撃から対抗し、攻撃出来る剣でした。

愛する信仰の家族のみなさん！ どうして当時その鋭い両刃(もろは)であった剣を、聖霊の剣である神の御言葉で例えたのでしょうか。神様の御言葉である聖書も、鋭い両刃のように鋭いものであり、どちらからの攻撃からも対抗し、対応出来るからです。神の御言葉聖書もヘブル人への手紙4章12節ではこう書かれています。

**「神のことは生きていて、力があり、両刃(もろは)の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄(こつずい)の分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。」**神の御言葉は生きていて、力があり、両刃(もろは)の剣より鋭く、人の思いや心、はかりごとまで刺し通し、見分ける協力的な御力がある武器であることを教えて下さっています。

この神の御言葉は、生きていて力があると教えています。つまり、聖書が単なる書物や文字とは違い、神の御言葉として、生きているので、人の内側と人生を変えることも、人も生かすことも、人を救いに導くことも、頑なな心の中に信仰と望みを与えることもできる生きている神様のみことばであることを意味します。そして、「たましいと霊、関節と骨髄」とは何を意味しますか。人の目に見えないたましいと霊に、「関節と骨髄」は私たちの肉眼(にくがん)で見えない深いところ、隠された部分、人の内側まで癒し、回復させることが出来ることを意味しているのです。

テモテ人への手紙第二3章15-17節「**聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。17 神の人がすべての良い働きのためにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。**」

御霊の剣である神の御言葉はすべてを鋭く刺し通し、その中に隠されているすべての真実をさらけ出すことができます。神様の御言葉は私たちが隠して置いた曲がったところ、汚(けが)れているところや罪のすみずみさえまでさらけ出させ癒し、回復することが出来る神の力があります。神の御前であらゆる誘惑と偽りにわきまえることができるように、聖霊の御心と思いを起こさせ、私たちの霊を目覚めさせ、知恵を与え悟らせて正しく導いて、打ち勝つように助けてくださいます。

#### <4. 聖書に対するサタンの誘惑と人の罪の本性>

ですから、みなさん！ 私たちに渡されている神の剣なる聖書をいつも身に着け、活用しなければなりません。

最初から、聖書の御言葉を正しく使い、適用する方法が分からないところが多いため、それを謙遜に認めつつ、聖書を定期的に学び、黙想する訓練と練習を続けてやっていかなければなりません！ 新しい料理一つを作ろうとしても、ちゃんと学んで、何度も練習しなければならないのに、神の御言葉を用いる使い方に対し、今まで一度も全部読んだこともなく、聖書の詳しい内容も分からないのに、どうやって相応しく、正しく用いることが出来るでしょうか。

今も、サタンは私たちが神の剣である御言葉から離れるように、手放すように誘惑し、そう攻めて来ます。

残念ながら、神様は我々を愛され、神の子ども通して日々、勝利して生けるように神の勝利に導く強力な力なる神の御言葉を我々が理解できるように我々の言語まで翻訳させ、我々に手渡して下さったのにも関わらず、罪人の本性を持っている人たちは、聖書を一週間ずっとほったらかし、神様の御言葉からどんどん離れ、自分勝手に、自分の力と知識、知恵とやる気のみで生きようとする傾向が強くなります！我々が色々忙しいからと言いながら、御言葉を読んだり、黙想したり、学ぶ時間がないからと言いながら、実はその時間が十分あっても、神様の御言葉を分からないままで、聖書に近づこうとしない罪の本性と傾向が私たちにあるのではありませんか。

なぜでしょうか。神の御言葉通り従って生きることが不便で、面倒くさいからです。それより、自分の思うままに生きてがります。そして、神様の御言葉を通して、自分の隠されている罪、自分の弱さがばれたり、さらけ出されるのが恥ずかしく、いやで、痛いからです。しかし、癌のような物ができちゃったら、痛くても、辛くても、我々の命、尊い人生、体全体を守るために、見えないところまで速やかに治療し、取り出さなければ根本的な癒しと回復にはならないのと同じです。

これはまるで、軍人が自分の鋭い剣によってケガされることを恐れ、刀(かたな)のさやに入れといたままにいるのと同じです。結局剣を使わなければ、一番損になるのは自分自身です。

そういうわけですから、我らは意図的に、積極的に、日々神の御言葉を用いる訓練と学び、練習を通して、いつでも聖書の剣を自由に用いて、守られるだけではなく、サタンからの様々な試み、攻撃、いつでも戦いに対して対抗し、追い出し、勝利を治めることが出来ると信じます。そして、これからは神の御言葉を通して、さらにたのしく、さらなる喜びと自由を体験されると信じます。「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。32あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。(ヨハネの福音書8章31中-32節)」 アーメン！！

この秘訣をすでに知っていた聖書の信仰の人物がいました。ダビデでした！神の御言葉を少年の時からだれより愛し続けていたのに、出世に、成功してイスラエル国の王様になってから、神の御言葉から離れ、怠(おこた)っているその隙間に性的な誘惑に負けて、人を殺すまで手出してしまう大きな失敗と罪を犯してしまった人物でした。しかし、彼は神の御言葉に頼りて、御言葉に従って悔い改め、だれよりも、神の御言葉を愛する回復され、祝福された人生を送ることが出来ました！

詩篇119編の長い詩の中、神様の御言葉についてこのように告白しました。ダビデはどんなに疲れていても、主の御言葉を慕い求め、どんな苦しみと艱難の中でもむしろ神の御言葉によって喜ぶことができたこと証しています(詩篇119篇140-143節「あなたのみことばは、よく練られていて、あなたのしもべは、それを愛しています。141 私は取るに足りない者で、さげすまれています。しかし、あなたの戒めを忘れてはいません。142 あなたの義のわざは、永遠の義、あなたのみおしえは、まことです。143 苦難と窮乏(きゅうぼう)が私に襲いかかっています。しかしあなたの仰せは私の喜びです。神様の御言葉があったため、自分が生かされ滅ばされなかったと告白しています。詩篇119篇92-93節「もし、あなたのみおしえが私の喜びでなかったら、それなら私は私の苦しみの中で滅んだでしょう。93 私は決してあなたの戒めを忘れません。それによって、あなたが私を生かしてくださったからです。」)だから、ダビデは、詩篇119篇97-98節で神の御教えを愛し、一日中自分の思いとなり、神の仰せによって、自分は自分の敵より賢くされたと告白しています。「どれほど私は、あなたのみおしえを愛していることでしょうか。それがいつも私の思いとなっています。98 あなたの仰せは、私を敵よりも賢くします。それがとこしえに、私のものだからです。」

愛するみなさん！御霊の剣である神の御言葉を愛し、御言葉にとどまり、御言葉を日々用いるこそ、私たちは神の知恵に満たされ、様々な人生の戦いの中にあっても、正しく見極め、分別し、対応しながら、十分に勝利を収めることが出来る秘訣になることを信じてください。神の御言葉は、神様から私たちの為に与えられた一番強力な霊的武技であります！神の御言葉こそ、みなさんの信仰を強めさせ、どんな人であっても、どんな人生であっても変え、回復させる神の力であると信じます。愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん、この聖霊の剣である聖書、この神様の御言葉をみなさんは日々どう用いていますか。

#### <5. 聖書の剣を正しく用いる為に: 祈りなしでは出来ません！御言葉と祈りはセットです！>

この神の御言葉、聖書は聖霊による、神の靈感によるものであると言う事です。

みなさんに一つ聞きたいです。みなさんは聖書を読んだり、黙想するため聖書を開く前に祈りますか。どうやって祈られていますか。ただ、自分で神様の御言葉を聞き、読むことだけで御言葉を正しく理解することはできません。聖霊の靈感によって書かれた御言葉なので、聖霊の助けを求めなければなりません。聖霊の靈感によって書かれた神様の御言葉を正しく悟れることが出来るようにと自分の心を開いてくださり、知恵を与えてくださるように、そして与えられた御言葉の通りに従える従順と御言葉による力と勇気を頂けるように祈りましょう。

ですから、本文6章17節に、「御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい」と教えながら、続きで、エペソ人への手紙6章18節に、「あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、す

**すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。」**と御言葉は祈りとともに伴わなければならない、別々ではなく、一つのセットであることが分かります。御言葉だけになれば、パリサイ人たちのように、神の御言葉を知的なものでしか受け取らず、律法主義者のようになりやすくなり、御言葉なしで、祈りばかりする方は、真理の御言葉のベースからずれやすく、祈れば祈るほど、自分が思っていることや感じていることがまるで、個人の主観的な感性や信念を、まるで神の御心と御言葉かのように、勘違いやすくなってしまいます。

**神様の御言葉は聖霊の剣だと申しました。ですから、神様の御言葉を用いる前に、私たちがまずやるべきことがあれば、聖書を開く前に、まず、聖書の著者であられる聖霊の神様の御前にヘリ下さり、聖霊の神の助けを切に求め祈らなければなりません。そして、霊的に目を覚ましていて敵を正しく見極めて、いつも戦いに備え、対抗するために、御言葉とともに祈ることも必須条件となります。私たちに聖霊の恵みと力が臨まれる時こそ、神様の御言葉を霊的な神の剣として正しく用いることができるのです。**

**<今神の全身武具をしっかりと取り、身に着けているのか点検して見ましょう！>**

**神のすべての武具を身に着ける**ということは**いつ、どんな時にも戦いに必要なすべての準備を整えさせた状態**を言います。今自分自身は信仰の面において戦う準備ができていますか。神様が私たちに向かって**‘神のすべての武具を身に着けなさい’**と命じて下さった理由は、**神様を信じている私たちは、この地上での人生の中信仰の生活をしながら、たえず、敵である悪魔と霊的な戦いが待っている、その戦いをしなければならないことを暗示して下さっています。**

愛する信仰の家族のみなさん！悪魔は存在します。そして今も働いています。この礼拝中にも、みなさんの思いの中、心の中、一週間の生活の中、みなさんの体の面や欲望の中、サタンは働き続きます。そして、今もなおクリスチャンたちを神様から遠ざけるためにあらゆる手段を用います。敵である悪魔はほえたける獅子のように、食い尽くすものを捜し求めながら、一人の魂でも滅びに陥らせるために歩き回っています。それに神の栄光のために生きようとしている人々に対しては、なおさら、すき間をねらい、時には苦しませながら、神から、信仰から離れさせようと歩き回っています。

しかし、神を信じている信仰の子供たちである私たちは、この御言葉を通して表に出されていることだけ見るのではなく、その裏で起こっている、はげしい霊的戦いの世界を見抜き、見分けながら、悪霊たちの正体を知り、対抗し、戦って打ち勝つ方法も知っている人たちです。

**<まとめ:もう神を信じるあなたに勝利が保障された戦いをしています！>**

今日も私たちはすでに打ち勝つことが決まっている戦いをすることを忘れないで下さい。なぜなら、我らの救い主なるイエス様はすでに打ち勝ったからです。**ヨハネの福音書16章33節「これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」**私たちはぎりぎり、ようやく勝つことではありません。使徒パウロは信仰の確信をもって言います。

**「しかし、これらすべてにおいても、私たちが愛して下さった方によって、私たちは圧倒的勝利者です。(ローマ8:37)」**なぜですか。悪魔には影響力はありますが、神様には決して勝てないからです！神様を信頼し、イエスキリストの御名によって、進む人々に悪魔は邪魔しようとしても決して勝てません。**ヤコブの手紙4章7節「ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」**イエスキリストの御名によってサタンや悪魔を恐れなくて、悪魔に立ち向かいましょう。ひとりではなく、信仰の家族とともに、神の御言葉と祈りを用いて祈り合い、支え合いながら、進み行き戦い続けて生きましょう。神様は決して私たちを一人でたたかわせないことをおぼえてください。(第一コリント10:13、ヘブル13:5、マタイ28:20)

私たちクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさんはこの六つの神様のすべての武具をしっかりと身につけた信仰の人々になりますように切に願います。それで今日も、今週も、今月も、今年にも、これからの全人生の歩みの中、神の大いなる勝利が皆様の勝利となりますように勝利者なる主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！